TOSA REHABILITATION COLLEGE

TOSAREHA

未来会

Contents

- 27期生歓迎会のお知らせ
- 定期総会・勉強会
- 土佐リハビリテーションカレッジ30周年記念　未来会研修大会 ～30年の歴史とこれからの未来に向けて～　を終えて
- 26期生歓迎会お礼
- 新人（26期卒）からの一言
- 学術部からの“報告”と“お知らせ”
- 未来会会員の活躍
- 書籍紹介・論文紹介
- 生命の基金
- 学会発表
- 四国作業療法学会「優秀賞」
- 四国理学療法士会創立50周年記念式典
- 高知県作業療法士会　会長紹介
- MTDLP推進協力校の承認
- 「第51回（2023年度）四国理学療法士学会のご案内」
- 未来会執行部について・役員紹介
- 新大学設立に関わる寄付金募集
- らくらく連絡網への登録のお願い
- LINEへの登録のお願い

機関紙
NO.25
2023. Spring

祝
27期生
卒業

27期生ご卒業おめでとうございます！
未来会へようこそ！！

27期生歓迎会のお知らせ

令和5年3月4日（土）、第27回目の卒業式が挙行され、本年度は理学療法学科41名、作業療法学科29名が卒業し、新たな人生の第一歩を歩み始めます。本来であれば、新卒者歓迎会を盛大に行いたいところですが、コロナ禍のご時世では大人数での会食は困難という決断に至りました。そこで、今年も『オンライン歓迎会』を検討しております。自宅に居ながら同級生や教員、各期の卒業生とお話ができ、県外で就職した新卒生を含んだ地域ブロックでの情報交換会なども考えております。詳細に関しては、らくらく連絡網及びLINE 公式アカウントからご連絡いたしますので、ご参加の程宜しくお願い致します。

開催日時　2023 年 4 月22 日 土曜日 19:00 ～

全会員、定期総会アンケート
（下記 QR コード）よりご回答ください。

アンケート〆切
3/17(金)

https://forms.gle/TPkVi6Qr5HypqGes8

定期総会・勉強会

【日時】　2023年4月22日(土)　定期総会：16:00～
勉 強 会：16:30～18:30

【テーマ・講師】

『地域連携におけるセラピストの役割～病院、デイサービス、訪問リハビリの経験を経て～』

金山　剛先生（PT9期卒：株式会社PMP　訪問看護リハビリステーション　ぽっちり）

『座位姿勢と注意機能の関連性～体幹を前方から補助するという視点～（仮）』

花田　智仁先生（OT14期卒：松山リハビリテーション病院）

土佐リハビリテーションカレッジ30周年記念　未来会研修大会 ～30年の歴史とこれからの未来に向けて～　を終えて

土佐リハビリテーションカレッジが香南市で開学し、30年が経ちました。これまで1期生～26期生まで多くの卒業生を輩出し、多方面で活躍しています。この度、土佐リハ開学30周年を記念し、昨年未来会では記念研修大会を開催しました。研修大会では、卒業後に得た臨床経験や技術、自らの研究など様々な内容の全16講演とシンポジウム2セッションという過去最大の講演数となりました。特別講演では、開校当時から本校を牽引して頂いている宮本謙三先生に「絆」～土佐リハと共に～というテーマで講演頂きました。久しぶりに授業を受ける感覚となり懐かしく思う卒業生も多かったのではないでしょうか。今年度においても新型コロナウイルス感染下であったため、対面の開催は叶わず、オンラインによる開催となりました。オンライン開催により県外からの卒業生も多く、約200名の参加があり、盛大な研修大会となったことは嬉しく思っています。

今後も土佐リハならびに未来会が発展できるように卒業生皆さんのご協力を頂きたいと思います。最後に本研修大会に参加・協力頂きました会員の皆様に運営スタッフを代表して御礼申し上げます。

大会長　奥田 教宏（PT9期卒）

ご寄付お礼とご報告

本大会におきまして以下の先生方から、講師料を寄付として頂きました。重ねて御礼申し上げます。

特別講演：宮本謙三先生

記念講演：OT6期卒 岡村忠弘先生、PT11期卒 久保徳昌先生、PT18期卒 下川貴大先生

シンポジウム：PT2期卒 細田里南先生、PT9期卒 金山剛先生

26期生歓迎会お礼

土佐リハビリテーションカレッジ未来会の皆様、お忙しいなか26期生の歓迎会を開いていただき誠にありがとうございました。コロナ禍ということもあり、対面での交流が制限されている今、沢山の方々が26期生を温かく迎え入れてくださり、人との繋がりの大切さを改めて感じた貴重な経験となりました。また、入職して間もなく不安でいっぱいだった私たちに温かいお言葉をかけていただき、大変大きな励みとなりました。私たち、26期生も早く皆様においつけるよう、セラピストとしてスキルアップできるよう日々精進して参ります。未来会の皆様、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

筒井病院　八木 水桜（PT26期卒）

新人（26期卒）からの一言

臨床１年目を振り返る
–千葉県で挑戦する–

令和リハビリテーション病院
上岡　颯（PT26期卒）

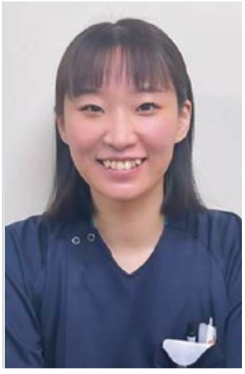
今回のサブタイトルでも示した通り、PT26期生で唯一の関東圏での就職となりました。人と異なる道を歩みたい、新しい病院で変化していく環境に携わりたいという強い思いから、関東へ旅立つことを決意しました。

入職後に感じた点として、若手スタッフが多いことから知識に偏りがあり、また病棟との連携が上手く取れていないなど様々な問題点はあると感じました。しかし、職員の年代が近いことから、非常にコミュニケーションの取りやすい職場なので臨床での悩みなど相談しやすい環境だと感じてもいます。

現在は、回復期の整形疾患・中枢疾患・廃用症候群などの様々な患者様の介入をしています。身体機能の向上を図りつつADL能力の向上を図らなければならない点や自宅復帰、施設退院、サービスの利用など患者様の退院先を見据えての展開が難しく、先輩方に相談しながら介入をしています。

次の４月からはPT２年目になり後輩が入職します。入職時に感じた不安を忘れず働きやすい職場だと思っていただけるように出来る限り相談に乗り、上司との橋渡しが出来るような関係性を築いていければと思っています。今後は他分野を意識した臨床のアルバイトをして多彩な思考で臨床に臨めるようにしていきたいと考えています。

この1年を振り返って



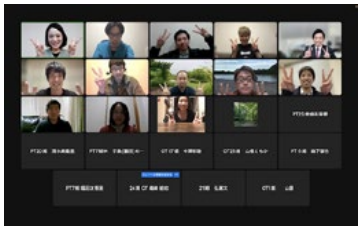
近森病院
藤村　鈴菜（OT26期卒）

1年を振り返ってみると、毎日が新しい事の連続で沢山経験し成長できた1年でした。学生時代はコロナ禍で実習が短期間だったため、入職前は不安でいっぱいでした。私は長期実習で急性期を経験したことや先生の勧めで、多くの疾患を学べる近森病院に就職しました。チーム内では主に急性期の脳卒中や神経難病の患者さんを担当しています。急性期は日々変化する患者さんの状態に加え入院期間も短く、たった1～3単位の関わりで結果を出さなければという焦りや訓練が上手くいかず落ち込む日もありました。そんな私に先輩方は親身になって一緒に考え、アドバイスをしてくれました。徐々に担当患者さんも増え頭がパンクしそうな毎日ですが、退院・転院時に患者さんから感謝の言葉をいただける様になり、私の頑張る糧になっています。2年目からは勉強会へ積極的に参加し知識を身につけ、患者さんにより効果的な作業療法を提供出来る様に日々精進していきたいです。

学術部からの“報告”と“お知らせ”

報告

令和4年度　未来会　勉強会実績報告



令和4年12月9日：リモート勉強会の様子

「web勉強会」導入当初は、主催者も講師も参加者も不慣れで、スムーズに開催できないこともありました。しかし、コロナ禍の中で不慣れながらも、新しいツール（web会議システム）を楽しみながら活用することで、「web勉強会」を定着させることが出来ました。お陰で、日ごろから県内外の会員の皆様にも参加して頂けるようになりました。また、今年度から一部の勉強会については、**登録理学療法士更新ポイントが付与される**ことになりました。今後も出来る限りこのような機会を増やし、会員全体のレベルアップや交流につながればと思っています。

4月16日（土）	土佐リハビリテーションカレッジ30周年記念 未来会研修大会 ～30年の歴史とこれからの未来に向けて～ 特別講演：1題　シンポジウム：2題　記念講演：16題
7月12日（火）	『高次脳機能障害へのリハビリテーション』 東翼先生（OT17期卒：訪問看護ステーション　いこいの森）
8月19日（金）	『疼痛のメカニズムと臨床応用』 奥田教宏先生（PT9期卒：土佐リハビリテーションカレッジ）
11月25日（金）	『半側空間無視により更衣および装具着脱に難渋した回復期脳卒中の一事例 ～机上検査とADL場面の差異に着目して～』 三本天也先生（OT25期卒：近森リハビリテーション病院）
12月8日（木）	『小児シンポジウム：地域における発達障害・脳性麻痺へのリハビリテーション』 岩本梓方子先生（OT23期卒：株式会社Ecold） 岩井萌先生（OT24期卒：サンテ・ペアーレクリニック） 西岡聡先生（OT24期卒：株式会社Lifechange忠さんのデイサービス）
1月18日（水）	『PT新人発表会：異常歩行の改善に難渋した3症例』 安藤誠先生（PT26期卒：福山リハビリテーション病院） 中澤亜海先生（PT26期卒：七栗記念病院） 吉村清和先生（PT26期卒：近森リハビリテーション病院）
2月3日（金）	『急性期の理学療法-透析患者に着目して』 泉裕斗先生（PT24期卒：藤田医科大学病院）

お知らせ

令和5年度　未来会勉強会計画案

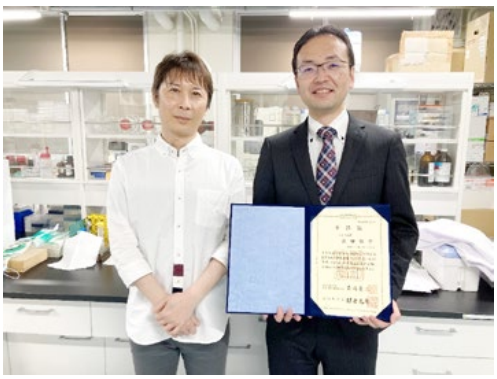
令和5年度の勉強会の予定は以下の通りです。是非、全国各地からご参加ください。詳細は開催1か月前を目途に未来会ホームページや公式LINE、Facebook、らくらく連絡網等にてお知らせします。企画したテーマ以外にも、「こんなテーマの勉強会がしたい」、「○○先生の講義が聞きたい」などの希望がありましたら、忌憚なく事務局までご連絡ください。なお、新型コロナウイルス感染状況に合わせて、リモート勉強会だけでなくハイブリット勉強会も企画できればと思っています。

第1回　4月22日（土）	『地域連携におけるセラピストの役割 ～病院、デイサービス、訪問リハビリの経験を経て～』 金山剛先生（PT9期卒：株式会社PMP訪問看護リハビリステーション　ぽっちり） 『座位姿勢と注意機能の関連性～体幹を前方から補助するという視点～（仮）』 花田智仁先生（OT14期卒：松山リハビリテーション病院）
第2回　6月5日（月）	『学校教員と作業療法士との連携』 吉岡和哉先生（OT10期卒：群馬パース大学）
第3回　8月（予定）	『装具療法の実際』 井上鮎佳先生（PT21期卒：東浦平成病院）
第4回　9～10月（予定）	『地域における小児領域の取り組み～起業の経緯から実践の内容～（仮）』 梶谷治夫先生（OT6期卒：株式会社長浜リハビリテーションサービス）
第5回　12～1月（予定）	『シンポジウム：精神科領域における作業療法の取り組み（仮）』 柳本由美先生（OT25期卒：岡豊病院）、中井智樹先生（OT25期卒：土佐病院）
第6回　2～3月（予定）	『訪問看護ステーションでのリハビリについて』 伊井雄基先生（PT14期卒：高知中央訪問看護ステーション）

「未来会会員の活躍」

高知大学大学院博士課程を終えて

土佐リハビリテーションカレッジ
奥田　教宏（PT9期卒）



昨年の３月に高知大学大学院　総合人間自然科学研究科医学専攻の博士課程を卒業しました。研究内容は、修士課程に研究してきた「痛みの増強メカニズム」に引き続き、「心理社会的ストレスと痛みの関係」についての基礎研究をおこないました。博士課程在学時には、神経国際学会（韓国）、全国解剖学会（新潟）、日本疼痛学会（兵庫）、四国理学療法士学会など多くの学会に参加し発表することで研究内容の質を向上させてきました。また、博士課程ではこれまで経験のない、国際誌（Behavioural Brain Research 418 ⑽ ,2022.［Impact Factor：3.4］）への投稿もおこないました。掲載まで Editor や Reviewer とのやり取りの方法など、指導教員から丁寧に教えて頂けましたので大変勉強になり、自分の成長が感じられました。研究内容が基礎分野でもあったため、今までとは異なる分野での発表も多く、様々な先生とも出会い、違った考え方や見方も学ぶことができました。日中は普段の業務、夜は大学院の講義や研究と大変ではありますが、ずっと大変という訳ではないため行きはじめると何とかなりました。決心する一歩が大変だと思いますが、修了すると達成感は非常に大きいものですので、迷っている方は是非行って頂きたいと思います。未来会では、会員の業績確認を毎年おこなっていますので、未来会事務局からのアンケートが届きましたらご回答頂けますようお願い致します。

大学院を終えて

彰栄リハビリテーション専門学校
眞々部（野瀬）仁美
（OT1期卒）

土佐リハを卒業し、あっという間に 20 数年が経ちました。若い頃は楽しい日々でしたが、経験年数が増える度にその年数に見合っていない自身の姿に悩みはじめ、39 歳で大学院に通うことを決意しました。

大学院では介護予防の視点で「地域在住高齢者の基本動作」に着目し研究を進めました。通信制でしたが、スクーリング以外でも院生同士で勉強したり、指導教員から助言をいただいたりと多くのかたの支援を受け、大切な仲間に出逢えました。振り返ると、初歩的な文献検索方法や論文読解力も不十分であり、研究計画から研究実施、統計手法、論文の書き方すべてに苦労した２年間でした･･･。とにかく劣等生で何度も挫折しましたが、大学院で学んだことは今に活かせていますし、何よりも論文を読むことが好きになりました。そして、臨床や教育現場においても自然と「研究疑問」を持つことができ、突き詰めてみたい、知りたいと前向き思考の自分に変化した気がします。

「コロナ禍での大学院生活」

松山リハビリテーション病院
花田　智仁（OT14期卒）

令和２年４月に吉備国際大学大学院の保健科学研究科作業療法学専攻に入学し、令和４年の３月に修士課程を修了しました。研究は、「脳血管疾患患者の座位における体幹を前方から支持する補助具の注意機能への影響」というテーマで、機器の効果検証を行いました。研究にあたり課題は山積みとなり、論文の作成には悪戦苦闘しましたが、指導教員の狩長准教授に多くのご指導を頂き、何とか形になりました。また、補助具の作成では川崎医療福祉大学の平田先生や橋本義肢製作のご協力を頂けたおかげで、研究を進める事ができました。また、コロナ禍における研究の進め方では頭を悩ませましたが、それも良い経験になりました。そして、他県への移動が難しい為、研究発表や学位審査なども、全てオンラインで行われ、学位記の授与も配達のお兄さんから頂きましたが、卒業できた嬉しさに変わりはありませんでした。これからも研究活動や論文投稿に向けて頑張っていこうと思います。学びの形は色々ありますが、大学院について悩んでいる人がいましたら挑戦してみても良いかなと思います。

「障害を持った児童とご家族が安心して暮らせる社会を目指して」

株式会社長浜リハビリテーションサービス　代表取締役
梶谷　治夫（OT6期卒）

私はもともと医療機関で作業療法士として勤務していました。そんな中、次女に発達障害があると分かった時は、まだ市内にも療育施設も少なく不安だらけの毎日でした。娘の障害について学び向き合いながら生活していくうちに、「自分が持つ資格や医療現場での経験を活かしながら、子供達や地域のために何かできないか」という思いが強くなり、療育施設を立ち上げる事を決意しました。医療機関を退職後、事業所開設に向け慣れない書類作成や事務手続きに四苦八苦しながら 2021 年に「株式会社長浜リハビリテーションサービス」を設立し、2022 年に「児童発達支援・放課後等デイサービスほのぼーの」を開設しました。

児童発達支援･放課後等デイサービスほのぼーのは、午前中は就学前、午後は就学後の児童を対象とし学習支援や運動、活動を通して療育を行っております。場所は地域の資源である旧小学校の２階を利用し地域に開けた事業所作りを心掛けています。私を含めスタッフは、身内に障害をもつ人が多く、職員としてだけはなく当事者としての立場や感情を共有しながら児童や家族の立場になって寄り添うサービスを提供していくことを第一として取り組んでいます。興味のある方はホームページや SNS をご覧いただき、お気軽にお問い合わせください。

https://www.nagahamareha.jp/

児童発達支援・放課後等デイサービスほのぼーの▲

書籍紹介

奈良学園大学
滝本　幸治 (PT4 期卒)

土佐リハビリテーションカレッジ
理学療法学科
近藤　寛 (PT14 期卒)

土佐リハビリテーションカレッジ
副校長
竹林　秀晃 (PT1 期卒)

高齢者に対する予防的運動介入:実践指導に必要な基礎と技術

この度、執筆に携わらせていただいた書籍「高齢者に対する予防的運動介入:実践指導に必要な基礎と技術」が文光堂より出版されました。本書は、地域で活躍する方々に必要な知識や実践に寄与するための内容として、加齢における身体的特徴やトレーニングにおける身体反応などの項目から、運動を安全に実施し、運動による効果を引き出すことを解説しています。また、地域の運動教室などで使用できる評価法や地域で活用できる運動指導の手順も含めてまとめています。

その内、「第5章各種トレーニングの実際5レジスタンストレーニング」を担当し、レジスタンストレーニングの運動特性や運動効果、運動指導の基本について解説しています。具体的な方法として、スロートレーニングの方法（動画を含む）や効果について提示しました。また、ワンポイントアドバイスとして、膝伸展運動時の運動方向の違いで単関節筋と二関節筋の筋活動が変化することについても解説しています。また、学生の時に担任をしていただいた滝本幸治先生も「第4章フレイル・サルコペニアのスクリーニングと地域で活用できる体力測定」の項目を執筆しています。担任の先生と肩を並べて同じ本に執筆できたことをうれしく思います。ぜひ、臨床に役立てていただければと思います。

（文責：近藤　寛）

論文紹介

青森県立保健大学　健康科学部
理学療法学科　准教授
篠原　博 (PT7 期卒)

膝関節屈曲角度に応じた大腿直筋の形状変化について

理学療法学科7期生の篠原博です。この度、体力科学に論文が掲載されました。論文タイトルは「膝関節屈曲角度に応じた大腿直筋の形状変化について」です。この研究では臨床で理学療法士がストレッチングの対象筋とすることが多い大腿直筋が膝関節の角度を変化することでどのような形状変化を示すか超音波エコーを用いて確認しています。その結果、膝関節屈曲角度を増大させることで大腿直筋の遠位部（膝蓋骨上縁から1番目～6番目の部位）までは筋厚は増加し、また近位部（膝蓋骨上縁から8番目）では反対に屈曲角度の増大に伴い筋厚が減少するという結果となり、大変ユニークな現象を確認しました。この理由として解剖学的な要因が挙げられ、大腿直筋を挟むような位置関係にある内側広筋、外側広筋の存在が影響していると考察しました。一つの目標だった体力科学に掲載され、大変嬉しく思います。これからも頑張りたいと思います！

土佐リハビリテーションカレッジ（PT9 期卒）
Takahiro Okuda, Yoji Osako, Chiharu Hidaka, Makoto Nishihara, Larry J Young, Shinichi Mitsui, Kazunari Yuri

Separation from a bonded partner alters neural response to inflammatory pain in monogamous rodents Behav Brain Res. 2022 Feb

https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/34748865/

土佐リハビリテーションカレッジ（OT15 期卒）
Junichi Inatomi, Satoko Kataoka, Sanae Hatada, Yutaka Yano, Kenji Hagihara, Masatoshi Katsura, Hideaki Takebayashi, Masahiro Yamaguchi

Asian Journal of Occupational Therapy

The Importance of Motor Imagery Ability in Determining the Optimal Focus of Attention During Motor Practice

https://www.jstage.jst.go.jp/article/asiajot/18/1/18_173/_pdf

生命（いのち）の基金

作業療法学科　講師　安岡　希和

本年度、「公益信託 高知新聞・高知放送生命（いのち）の基金」の助成事業に２名の研究が採択されました。本校からは昨年、教員４名の研究採択に続いての採択となります。写真は、2022年3月30日に高知新聞放送会館の贈呈式で撮影されたもので、この日から1年間、それぞれの研究に取り組んでいます。

「生命（いのち）の基金」は平成元年に発足し、医療の充実や振興のために治療や研究、支援活動などに取り組む人たちを助成するための基金です。私自身の研究では、コロナの感染拡大に伴い多くの医療提供施設で面会禁止になったことを受け、高知県下における医療提供施設のオンライン面会の実情の把握を目的にアンケート調査を実施しました。このオンライン面会におけるメリットを明らかにし、コロナ終息後も面会の選択肢の一つとして継続され、患者さま（利用者さま）と家族の距離に関わらず「会うこと」へのハードルを下げる一助として意義を見出すことが出来ればと考えています。

引き続き、研究を継続していくなかで高知県に住む、すべての人が自分の住み慣れた地域社会でより心豊かに暮らすことができるよう、この研究を実りあるものにしていきます。

竹林 秀晃（副校長）
「発達障害児に対する協力行動を用いた運動・社会スキルへのアプローチ」（51万円）
安岡 希和（作業療法学科 講師）
「アフターコロナに向けたオンライン面会の実情の把握」（8万円）

高知大学医学部附属病院　下川　貴大（PT18 期卒）

私はこの度、公益信託高知新聞・高知放送2021年度「生命の基金」の助成事業に「血液がん患者の筋力維持・向上を目的とした新たな運動療法」（38万円）というテーマで採択していただきました。本テーマは、血液がんで化学療法の治療を行う方を対象とし、全身振動刺激装置を用いて運動療法を行うことで、体力の維持・向上に寄与できないかという内容になります。

私は2019年度から高知大学医学部附属病院で、主にがんの患者様のリハビリテーションを担当させていただいております。そのがんのリハビリテーションの主な目標は“体力の維持・向上”であると考えています。しかし、化学療法などの治療の副作用により、中・高強度の運動を行うことは困難である場合が多く、どのように運動の質を向上できるのかというclinical questionにした形が、今回のものになります。

臨床場面で経験する疑問を解決する行動が、研究という形となり、それが臨床場面に活きてくる。研鑽するということを、初心を忘れずこれからも進んで行きたいと考えております。

学会発表

データと向き合う事で、地域医療・介護に貢献する

いの町立介護老人保健施設仁淀清流苑（高知県）

池本　祐貴（PT22期卒）

私は現在、いの町立仁淀病院事業の一つである介護老人保健施設に勤務しています。その中で、対象者の身体機能や活動のデータを横断的に収集・分析し、その結果を四国理学療法士学会や全国老人保健施設大会で報告しました。ご指導いただいた先生方には、本当に感謝しております。

「欠損値が多くても、正規分布しなくても、対象者の傾向を分析することは地域貢献に繋がる。」「やらないより、やった方が為になる。」をモットーにデータと向き合いました。向き合う事で、地域特性や傾向といった新たな知見を得ることが出来ました。学会は知見を共有し様々な方から助言を頂く絶好の機会だと、今回感じることが出来ました。現在も継続してデータを収集しています。近い将来、その結果を公衆衛生的な視点で、他職種や地域住民と共有できればと思っています。

最後に私事ですが、自宅で統計学の本を読んでいると、2歳の息子が「とおけい」と言いながら、近寄ってきます。息子のような好奇心を、私もいつまでも忘れずに、地域医療・介護、そして育児に邁進したいと思っています。

発表風景

様々な職種の方と話し、名刺交換、情報共有しました

神戸の大会参加後に元町中華街を観光

同期の竹中PT（この後、彼は、台風の影響により、自宅がある名古屋へ帰る事が難しくなり、米原のネットカフェで一泊する事になります）

第31回四国作業療法学会での発表経験、及び第17回高知県作業療法学会の開催について

だいいちリハビリテーション病院（高知県）

森　祐輔（OT13期卒）

私は、だいいちリハビリテーション病院に勤務しております13期卒の森と申します。令和4年2月26日（土）・27日（日）に開催された、第31回四国作業療法学会で発表をしました。発表演題は、「正中神経・尺骨神経麻痺を合併した筋皮神経移植術後患者に対するアプローチ～機能的電気刺激と末梢からの感覚情報を用いて～」でした。症例は手指の感覚障害が重度であり、治療として機能的電気刺激と同時に末梢（手）からの感覚情報を用いながら行い、結果、筋力・感覚の改善を認め、生活場面での使用場面が増えたという内容でした。発表時には、座長や参加の方から質問やアドバイスもいただき、とても勉強になりました。今後もより良い関わり、治療ができるように取り組んでいきたいと思います。

また、今回、私が第17回高知県作業療法学会の実行委員長を務めさせていただきことになりましたので、学会の内容についてお知らせをさせていただきます。本学会は、令和5年6月24日（土）に土佐リハビリテーションカレッジにて、ハイブリッド形式で開催いたします。テーマは「つながり続けるために～コロナ禍の作業療法とその可能性～」で、基調講演は田中きよむ先生（高知県立大学社会福祉学部教授）にご登壇いただき、その他、シンポジウムや一般演題も企画しております。初めてのハイブリッド開催であり、委員一同、当日に向けて準備と運営をしております。是非、学会への参加をよろしくお願いいたします。

四国作業療法学会「優秀賞」

四国作業療法学会優秀賞いただきました

土佐リハビリテーションカレッジ

稲富　惇一（OT15期卒）

2022年2月に開催されました第31回四国作業療法学会の優秀賞に選んでいただきました。栄えある賞をいただき光栄です。この場をお借りして、投票してくださった方々、並びに企画から運営に携わられた学会長の浅川様（OT3期卒）、事務局長の岡村様（OT6期卒）、実行委員の皆様に深く感謝申し上げます。

受賞表題は「コロナ禍における子ども運動教室の必要性」で、内容は子ども達の運動能力がコロナ前と比べて低下しているという測定データを示し、加えてそれらの児に対して作業療法士と理学療法士が運動教室を実施した後の効果について発表しました。

コロナだけに留まらず色々と大変な世の中ですが、子どもから高齢者の方々が笑顔になれるよう、今後も私達の専門性を活かした社会貢献活動を行っていきたいと思っております。

四国理学療法士会創立50周年記念式典

土佐リハビリテーションカレッジ　校長
　　宮本謙三
土佐リハビリテーションカレッジ　副校長
　　竹林秀晃（PT1期卒）
徳島文理大学　保健福祉学部　教授
　　榎　勇人（PT1期卒）
奈良学園大学　保健医療学部　講師
　　滝本幸治（PT4期卒）

令和4年11月26日、四国理学療法士会創立50周年記念式典及び記念講演が開催されました。記念式典では、功労分野において宮本謙三校長、学術分野では竹林秀晃副校長、榎勇人先生（徳島文理大学）、滝本幸治先生（奈良学園大学）が表彰されました。

高知県作業療法士会　会長紹介

(一社)高知県作業療法士会の会長に就任しました

久病院
浅川　英則(OT3期卒)

COVID-19に翻弄される日々が続くなか皆様も各々の環境で奮闘されていることと思います。今となってはマスクなしや宴会のある日々が遠い昔のように感じてしまいます。

さて、私事ではありますが、令和4年度の高知県作業療法士会総会にて会長に就任いたしました。最初は事業部員として活動を重ね、理事8年、副会長6年を経て今回に至りました。この20年ほどを振り返ると県士会の事業は会員向けが中心だった頃より随分外向きのものが増えた印象があります。それだけ社会の中でリハ専門職が必要とされる場面が増えたという事でもあると思います。

これからも(公社)高知県理学療法士協会の会長である宮本謙三先生にご指導いただきながら、高知県に貢献できる職能団体であるよう努めて参ります。また、今まで〝できたらいいな〟で終わっていたものを一つ一つ実現していきます。

未来会会員の皆様におかれましては所在地の士会活動に対し、引き続きご理解とご協力の程よろしくお願いいたします。

MTDLP推進協力校の承認

土佐リハビリテーションカレッジ
桂　雅俊(OT15期卒)

この度、本校のOT学科が日本作業療法士協会の定める「生活行為向上マネジメント推進協力校」として、認定されました。生活行為向上マネジメント（MTDLP）とは、他職種や一般住民に分かりやすく地域包括ケアに貢献できる作業療法の形を示す目的で、開発された実践ツールのことです。中村春基OT協会長をはじめ現在、全国の作業療法士がMTDLPを活用し、作業療法の見える化を通して国民に広く周知されることで、職能団体としての地位向上に努めています。

2022年4月現在、全国の養成校204校に対して推進協力校は16校と少数です。また、本校では学内の授業だけでなく、臨床実習においても指導者の先生方にご協力をいただきながら、MTDLPのシートを用いた課題および症例報告書（レジュメ）の作成を実施しております。このような取り組みを通して、今後は地域包括ケアに資する作業療法士の育成・指導に向けてより一層尽力して参りたいと思います。

「第51回(2023年度)四国理学療法士学会のご案内」

学会長
島岡　秀奉(PT1期卒)

準備委員長
渡邊　家泰(PT16期卒)

理学療法学科1期生の島岡秀奉です。今回、第51回四国理学療法士学会の学会長の大役を任されることとなりました。そこで本学会の概要についてお知らせ致します。会期は令和5年11月25日～26日の2日間で、会場は高知県立県民文化ホールです。テーマは「臨床を科学する」としました。私の経験からひねり出したテーマで、理学療法士は患者の身体を触ることで体温や硬さ、動きの抵抗感、また対話をすることで声の質感など様々な情報が、セラピストの五感に伝わり、患者の病態を評価しています。病態が変化した時には疑問を持ち、さらに詳しく患者の状態を観察し、患者に接しながら疑問を解決すべく治療、評価を繰り返します。その際、患者の身体だけでなく、一人一人の患者の物語（narrative）を尊重しつつ、患者の身体、精神に即したアプローチを創造することが重要だと考えます。このプロセスの中でいかに多くの疑問を持つのか、それをいかに解決するのかが必要であり、この過程を積み重ねることが豊かな臨床経験となると考えます。理学療法の科学性は、患者に触れる、接することで遭遇する疑問についてより具体化し、分析を繰り返すことだと思います。ぜひ卒業生の皆さまも学会へ参加し、日々の臨床の疑問や研究成果を発表頂ければと思います。特別講演には、私の恩師である正門由久先生（東海大学医学部専門診療学系リハビリテーション科学）と内田成男先生（富士リハビリテーション大学校）をお招きしご講演していただく他、教育講演4題、一般演題は80演題を予定しています。県内、四国内また四国以外におられる多くの卒業生のご参加をお待ちしております。

第51回四国理学療法士学会「臨床を科学する」

会場：高知県立県民文化ホール

○特別講演1　2023年11月25日（土）
神経生理学をリハビリテーション医学に応用する　ー筋電図の使い道ー
正門　由久 先生（東海大学　医学部リハビリテーション科）

○教育講演1　2023年11月25日（土）
歩行再建と生活再建　ー理学療法士ができることー
大畑　光司 先生（京都大学大学院　医学研究科）

○教育講演2　2023年11月25日（土）
先端的な支援工学技術を活かした生活支援の展望　ー社会に求められること、地方で行えることー
松田　雅弘 先生（順天堂大学　保健医療学部理学療法学科）

○特別講演2　2023年11月26日（日）
理学療法における臨床思考　ーサイエンスとアートの両面から臨床を構築するー
内田　成男 先生（富士リハビリテーション大学校）

○教育講演3　2023年11月26日（日）
バイオメカニクスから考える脳卒中片麻痺の歩行分析と治療戦略
長田　悠路 先生（徳島文理大学　保健福祉学部理学療法学科）

○教育講演4　2023年11月26日（日）
痙縮の多角的評価と最新治療
山口　智史 先生（順天堂大学　保健医療学部理学療法学科）

未来会執行部について

2年間にわたる未来会執行部役員の仕事を振り返ってみて。

株式会社オン・ザ・プラネット

住江　知昭（OT23期卒）

私は、現場で仕事を行いながら未来会執行部役員として仕事をしております。未来会執行部役員のお話をいただいたのは社会人2年目の頃、クラス担任であった稲富先生からお誘いを受けたことがきっかけでした。当日は社会人2年目の自分に何が出来るのか不安がありましたが、『大好きな高知県の為に、母校の為に恩返しをしたい』という思いがあり、その思いを実現する為の企画力、行動力こそ自分の武器であると考えました。そして、この武器を発揮する事で母校へ恩返しに繋がると思い、引き受けさせていただきました。

現在、未来会執行部役員としての主な仕事内容は、研修会や新人歓迎会などの企画内容の提案や運営補佐、講師として研修会で講義を行う、学校の運営方針について意見を提示する等があります。

最後に、土佐リハビリテーションカレッジは2024年4月より高知健康科学大学として開設予定となっております。今後、更なる母校の発展には全国各地で活躍されている卒業生皆様のお力が必要です。大好きな高知県の為に、大好きな母校の為に、共に未来会執行部として活動してくれる仲間を募集しています。

お気軽にご連絡下さい、待ってます！

未来会執行部　役員紹介

・会長
竹林 秀晃（PT1期卒）

・研修会管理、監査
岡部 孝生（PT1期卒）

・会議進行、書類の作成
奥田 教宏（PT9期卒）

・会計
箭野 豊（OT3期卒）

・会員住所管理
桂 雅俊（OT15期卒）

・総務(事務)
近藤 寛（PT14期卒）

・ホームページ管理
稲富 惇一（OT15期卒）
渡邊 家泰（PT16期卒）

・業績管理
井津 直哉（OT14期卒）
濱田 涼太（PT18期卒）

・書記
金山 剛（PT9期卒）
野村 麻衣（PT14期卒）
住江 知昭（OT23期卒）
岩井 萌（OT24期卒）

新大学設立に関わる寄付金募集

学校法人　土佐リハ学院

高知健康科学大学（仮称）

「土佐リハビリテーションカレッジ」から「高知健康科学大学」（仮称）に

学校法人土佐リハ学院では、長年にわたり土佐リハビリテーションカレッジの大学化を検討してきましたが、このたび大学設置に向けた準備が整ったことから令和4年10月に文部科学省に大学設置申請を行いました。令和6年4月の開学予定で健康科学部リハビリテーション学科に、理学療法学専攻（入学定員35名）、作業療法学専攻（入学定員35名）を設置する計画です。学校名が変更になり少し残念にも思いますが、未来会の皆さんには引き続き応援くださいますようお願いします。

なお、この計画はあくまでも申請段階ですので今後変更が生じる可能性があります。ご承知おきください。

土佐リハビリテーションカレッジ校長

宮本　謙三

【寄附金の募集】
応援いただける皆様は、土佐リハHPをご覧ください。

https://www.tosareha.ac.jp/kifu/

らくらく連絡網への登録のお願い

未来会では、「未来会会員の連絡網」を作成しています。連絡網の手段として、無料のメーリングリストサービスである「らくらく連絡網」を利用しています。出来るだけ多くの卒業生に登録してもらい、色々な情報の発信をと考えています。まだ登録されていない方は、以下の手続き方法を確認の上、手続きを行ってください。出来るだけ多くの卒業生に協力頂けると幸いです。

以上、大変お忙しいところお手数をお掛けしますが、よろしくお願いします。

《対 象》 全会員（PT ／ OT・県内外問わず、1 ～ 27 期までの卒業生全員）

《方 法》

▼ ① 空メールを送信する。

未来会 PT 登録用のアドレス
16234137@ra9.jp

未来会 OT 登録用のアドレス
16388898@ra9.jp

※ PT/OT で送信するアドレスが違うのでご注意ください! ⇒空メール送信後、直ぐに「らくらく連絡網」から返信が届きます。

▼② 返信されてきたメールの指示に従い、手続きをおこなう。

返信メールの本文内に掲載されている URL をクリックし、画面下にある“同意する”をクリックしてください。その後、メールアドレスや氏名（フリガナ）、性別、所属（病院・施設名）、電話番号、生年月日等の必要事項を記入して頂く必要があります。必要事項が記入できましたら、“登録”をクリックしてください。登録ボタンクリック後、登録手続き完了の画面になりましたら、その画面は閉じて頂いて構いません。

▼③ 再び「らくらく連絡網」からの返信（「メンバー登録完了」の旨の）を確認する。

「メンバー登録完了」の返信メールは 1 ～ 7 日かかる場合があります。「メンバー登録完了」の返信に記載されている個人専用のページのアドレスをブックマーク登録しておくと、今後便利です。

注）いずれの手続きも、PC からもスマートフォンからも行えます。しかし、**スマートフォンで行う場合、PC からのメールを拒否設定している方はそれを解除してもらう必要があります。**

もちろん、上記連絡網は未来会の活動に関する連絡事項通知すること以外の使用目的で使用することはありません。

※ らくらく連絡網について詳しく知りたい方はホームページ（http://www.ra9.jp/）をご参照ください。

※ 無料の ML を使用しているので、各種広告メールが添付されていることがありますが、ご了承ください。

LINEへの登録のお願い

数年前より「らくらく連絡網」以外の連絡手段として公式 LINE アカウントを活用してきました。その公式ラインアカウントの料金プランが、この度 2023 年 6 月に改定されることになりました。それに伴い、これまで土佐リハ未来会 PT（1 ～ 25 期卒用・26 期卒～用）、土佐リハ未来会 OT（1 ～ 25 期卒用・26 期卒～用）の 4 つに分けていたアカウントを、「土佐リハ未来会」1 つのアカウントに一元化させて頂くことになりました。つきましては、右の QR コードから友だち追加をお願いします。

これまでに登録して頂いた方も、再度友だち追加をお願いします。

土佐リハ未来会

https://lin.ee/KuVYMBG

未来会事務局　e-mail：miraikai@tosareha.ac.jp（未来会事務局代表）　TEL：088-866-6119（土佐リハ内）

■発行：土佐リハビリテーションカレッジ同窓会～未来会～（広報部）　〒781-5103 高知県高知市大津乙2500-2
■発行所：土佐リハビリテーションカレッジ同窓会～未来会～（事務局）会長　竹林秀晃
■印刷所：小野高速印刷株式会社
■発行日：令和5年3月